

# 2019年度 地域相談支援フォーラムin茨城開催報告

その人らしい選択を  
いつ・どこで・誰が・支えるのか

～がんを抱えて生活していく上での意思決定支援のあり方～

日時

2019年11月9日（土）10:00～17:00

場所

つくば国際会議場 中ホール

茨城県がん診療連携協議会相談支援部会  
茨城県立中央病院・地域がんセンター  
朝比奈政子



# 研修概要

❖主催 茨城県がん診療連携協議会 相談支援部会

❖後援 国立がんセンターがん対策情報センター  
栃木県、群馬県、新潟県、長野県、山梨県、  
茨城県看護協会、茨城県医師会、茨城県疾病対策課  
茨城県ソーシャルワーカー協会

❖**研修のねらい**:がん相談に関わる相談員が、患者ががんを抱えて生活する上での様々な状況に置ける意思決定支援にどのように関わっているのか各県の施設での取り組みを情報共有する。患者の体験発表から、告知後の気持ちの変化やどのようなときに、誰に支えられて、大事なことを選択してきたか等を学ぶ事で、相談員として何が出来るか、すべき事について考える機会とする。

❖**研修の目的**:がん相談員の質の向上と意思決定支援の実情を知り、出来る支援を考える。



## ❖参加者内訳

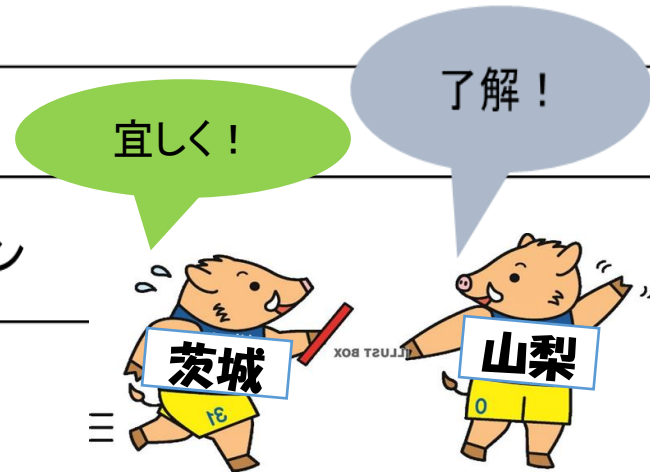
総数119名(修了証発行 97名)

職種別	人数
福祉職	44
看護職	58
医師	6
その他 (事務職・心理士・ピアサポーター)	11

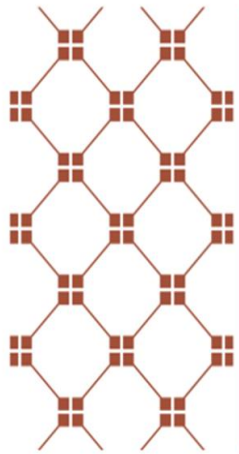


# 2019年11月9日(土) 開催プログラム

時間	内容	会場
9:00~ 10:00	受付  	中ホール 2F (200) 入口
10:00~ 10:15~12:00	開会式 第一部 シンポジウム 「各県の施設での意思決定支援の取り組みについて」	中ホール 2F (200)
12:00~13:00	昼休憩	大会議室 1F 102
13:00~14:30	第二部 がん体験発表 「茨城がん体験談スピーカーバンクによる体験発表」	中ホール 2F (200)
14:30~14:50	休憩/会場移動	会場移動
14:50~16:30	第三部 グループディスカッション	大会議室 1F 102
16:30~17:00	引継ぎ式 (茨城県から山梨県へ) 閉会式	大会議室 1F 102



# 第一部 シンポジウム 各県施設の意思決定支援の取り組み



第1回 地域相談支援フォーラムin北関東甲信越

「その人らしい生活を  
いつ・どこで・誰が支えるのか」

がんを抱えて生活していく上での  
意思決定支援のあり方

那須赤十字病院 がん相談支援センター  
看護師 水野恵美  
2019年11月9日(土)

2019年度 北関東甲信越ブロック 地域相談支援フォーラムin茨城

胃がん患者の意思決定に  
継続して介入した事例



桐生厚生総合病院  
荒川 浩

意思決定支援の取り組みについて

新潟県立がんセンター新潟病院  
地域連携・相談支援センター  
医療ソーシャルワーカー 植本 洋平

がん相談支援センターにおける  
意思決定支援の現状と課題



JA長野厚生連 佐久総合病院 佐久医療センター  
がん相談支援センター  
井出 康恵



2019年度 北関東甲信越ブロック  
地域相談支援フォーラムin茨城

山梨県と山梨県立中央病院

意思決定支援の取り組みについて



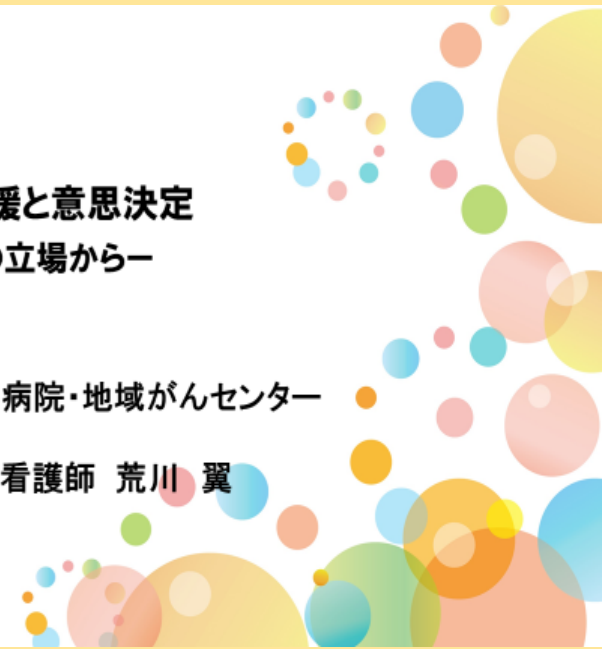
山梨県立中央病院  
がん相談支援センター  
山岸 良治



療養生活支援と意思決定  
—病棟の立場から—

茨城県立中央病院・地域がんセンター

がん看護専門看護師 荒川 翼



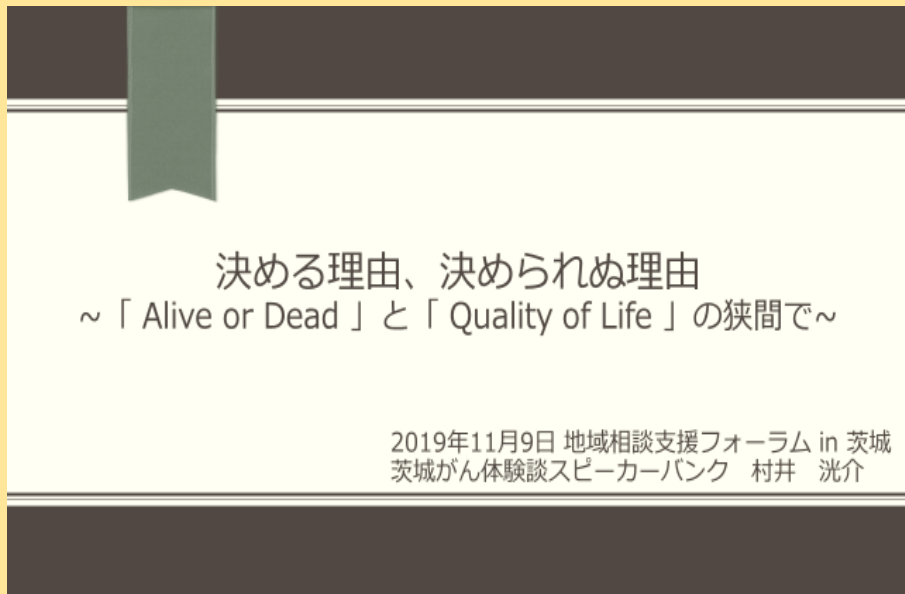
# 第二部 がん体験発表 (茨城がん体験談スピーカーバンク)



～「早期発見で幸運だった  
と思いますよ」の言葉に救  
われて～

- 2019年度 北関東甲信越ブロック 地域相談  
支援フォーラムin茨城
- その人らしい選択を
- いつ・どこで・誰が・支えるのか
- ～がんを抱えて生活していく上での意思決定支援  
のあり方～

■茨城がん体験談スピーカーバンク 田所 厚子  
■2019年11月9日(土)  
■つくば国際会議場



決める理由、決められぬ理由  
～「Alive or Dead」と「Quality of Life」の狭間で～

2019年11月9日 地域相談支援フォーラム in 茨城  
茨城がん体験談スピーカーバンク 村井 洸介



2019年度北関東甲信越ブロック 地域相談支援フォーラムin茨城

当団体の取り組みと使命について

茨城がん体験談スピーカーバンク  
副代表 塙 光雄



2019年度北関東甲信越ブロック 地域相談支援フォーラムin茨城

がんになっても一人じゃない  
～扉の向こう側の未来へ～

茨城がん体験談スピーカーバンク  
三上 尚子



2019年度地域相談支援  
フォーラムin北関東甲信越

蜘蛛舞  
(すい臓がん体験談)

～数字がある限り、可能性はある～

茨城がん体験談スピーカーバンク  
河口 雅弘

# 第三部 グループワーク (15グループ) 97名参加

グループワークのテーマ  
「その人らしい選択をする  
ための支援とは？」



1. がんを抱えて生活している患者への意思決定支援をどのように行っているのか(現状)
2. その人らしい選択を支えていくために、相談員としてどのように向き合い支援していったらよいのか(検討・課題)
3. できる事からやってみよう・・・ (宣言)

**活発な意見交換と知識の共有が出来ました**

【発表内容】 6グループの発表

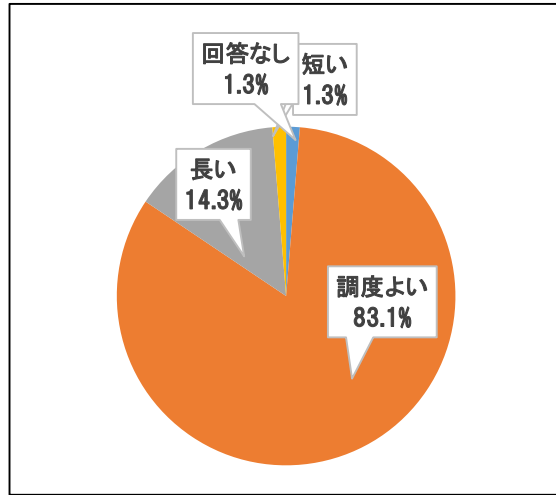
- ・意思決定には様々な段階があるため、段階毎に関わっていく事が重要
- ・患者の意思は状況に応じて変化するため答えは一つではない
- ・何がその人にとっての最善か寄り添い考える
- ・一人で対応するのは負担が大きいため他職種で関わる。カンファレンスの開催、情報共有ができる機会を作る
- ・意思決定支援には関わりの過程が大事である
- ・早くから、がん相談支援センターを知っていただく。名刺サイズのリーフレット、がんサポートブックなどの活用、場所をわかりやすく、のぼりの活用など気軽に入れるようにする



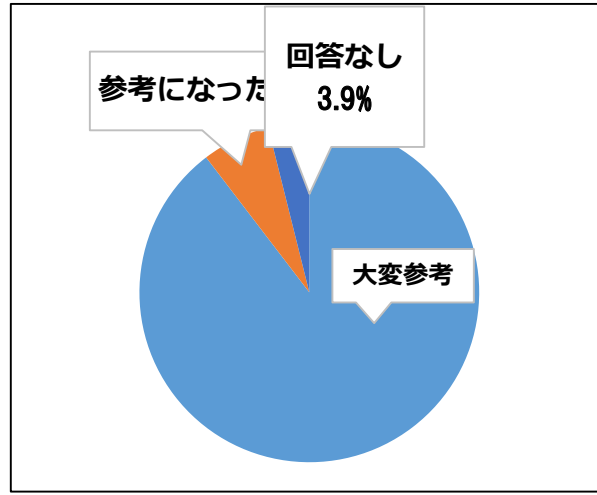
# アンケート結果

119名中77名の回収(回収率64%)

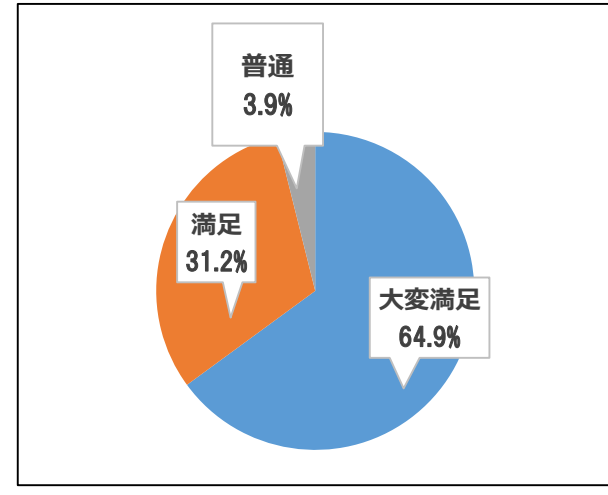
全体の研修時間はどうでしたか



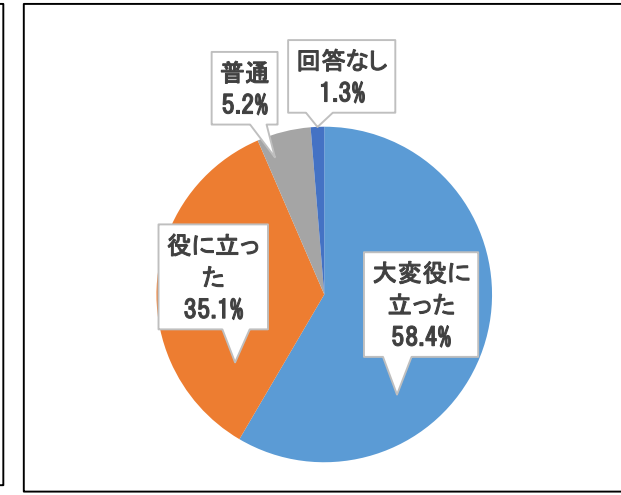
がん体験発表はどうでしたか



全体を通して研修内容は  
どうでしたか



グループワークは今後の  
活動に役立ったか



<自由記載より一部抜粋>

- ・がん体験者と専門職、それぞれの意思決定支援の話が聞けて参考になりました。
- ・がん患者さんのQOLや納得できる意思決定支援が出来るように学び続けたいと思いました。
- ・シンポジウムでは他施設のホームページでのシステムや案内方法、対応方法が聞けたので、大変良かった。今後、それらを参考にしスクリーニングの検討と院内への周知を検討したいと思いました。
- ・シンポジウムの時間が短く、ディスカッションの時間が少なくて残念でした。
- ・スピーカーバンクの方々の体験談を通して相談員としての支援の課題が見えました。
- ・体験発表はとても心にささりました。患者の気持ちを大切にして相談支援を行っていきたいと思います。
- ・病院の中のがん相談支援センターの役割、地域の支援関係、施設の役割が繋がり、がん相談者にとってのより良い支援となることが大切だと思いました。
- ・大変貴重なお話を伺う事が出来ました。 ・他施設の方と意見交換が出来て良かった。

# 研修の学びと今後の課題

## 研修の学び

- ・意思決定支援について、**患者の思い**を話しやすい人間関係を築く。
- ・患者の状況に応じた**経過、関わる過程**の中でその都度対応していく。
- ・医療従事者にとっての最善が**患者・家族にとっての最善**とは限らないため何がその人にとって一番良いのか、**いつでも、どこでも、みんな(ワンチーム)**で検討して、**意思決定支援を行う**ことが大切である。

## 課題

- ・患者の意思決定支援に関わるには、より相談しやすい環境を作る。がん相談支援センターが患者・家族に活用してもらえるようにそれぞれの施設が敷居を低くする工夫をしていく。
- ・今回の研修開催においては・・・時間の管理、関係者への事前連絡、資料の準備の遅延、事務作業の多さが課題。